

チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	26-19-1	デジタル元年にふさわしい、新しいコミュニティのカタチを考える ～住之江区大好き人口を増加させるアイデア募集～	大阪市住之江区
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	防災で区外まで拡張してつながるコミュニティ		

（注1）地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	住之江区ワクワクプロジェクト		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	1	
メンバー数（公開）	4名		
代表者（公開）	中尾将志		
メンバー（公開）	他3名		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2021_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

社会情勢や感染症状況、住民の人口構成やライフスタイルによってコミュニティ活動が維持できなくなっていること。

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

社会情勢や人口構成がどうなったとしても、災害は発生します。

「何を」

絶対に維持しなければならない「防災」を軸としたイベント・セミナー・ワークショップをオンライン・リアル・ハイブリッドで実施することで、ブレずに継続できる地域コミュニティ活動となります。

「誰が」

住之江区の企業・団体・住人、区外の企業・団体・地域活動を行う人を、防災を中心にまとめます。

住之江区の企業は、「企業の強み×防災」イベントを住民と実施することで、地域貢献活動と従業員への災害対策を行うことができます。

例 1) ドラッグストアと、ドラッグストアの防災棚を考えるアイデアソン

例 2) 水回り施設企業と、水と珈琲と防災を語るセミナー



「いつ」

いつでも、数多く開催します。

「どこで」

感染症状況でも継続でき、区外関係者を参加しやすいようにオンライン上で開催します。

地域での ICT 弱者へもリーチできるよう、リアルでも開催します。

イベントの特性に合わせ、オンライン・リアル・ハイブリッドで実施します。

なお、イベント開催予定や開催レポートを、オープンストリートマップを用いて確認できるようにすることで、広報活動を兼ねたポータルサイトの側面を持たせることが可能です。

「どのように」

イベント内容に応じて、自在に開催します。

実際の中学生向けオンライン防災学習の様子



2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

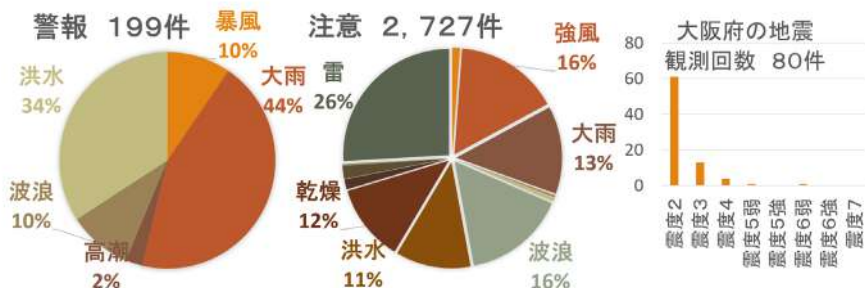
このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

- 1) 住之江区の立地では、大雨・洪水が多く風水害が多く、地震による津波の懸念もある
(大阪管区気象台よりデータ入手)

大阪市における警報・注意報 (平成24年～令和2年)



- 2) 住之江区は一人暮らしが39%、うち42%が高齢者であり、日頃の防災意識熟成が重要
(データ：国勢調査データ 2015年)

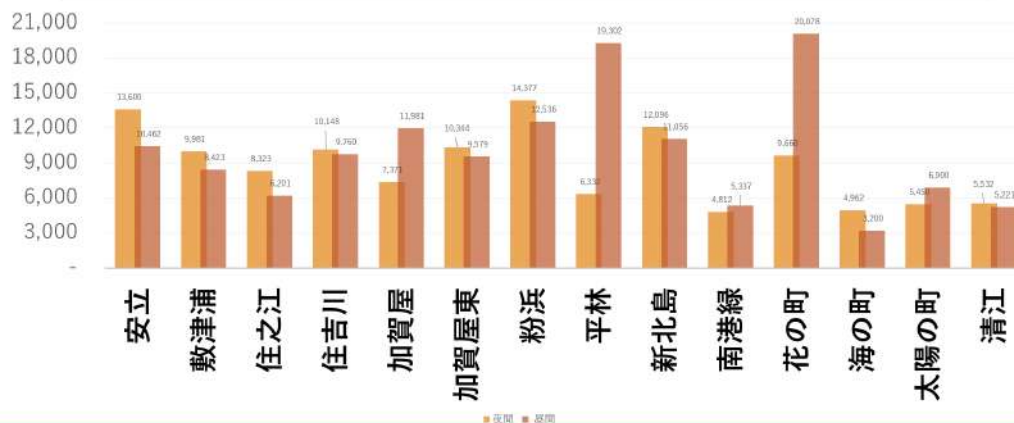


3) 昼夜人口は3倍の開きがある地域もあり、日中の防災活動は区住民でない働き手や中学生が主体となる必要もあり、学校や企業向けへの防災学習が必要

(データ：国勢調査データ 2015年)



住之江区 昼の顔、夜の顔



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

- 1. **実現する主体**
- 2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
- 3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

- ・住之江区役所 メリット：防災活動、コミュニティ活動活性化
- ・地域企業 メリット：地域貢献活動、社員を守る災害対策

地域企業は、自社取り扱い商材・サービスの特性を活かすことで、社員が自分事として取り組み、住民への広報活動を兼ねる。

2. 実現に必要な資源

- ステップ 1) 防災学習コンテンツ、オンライン学習プラットフォーム
- ステップ 2) リアル開催場所
- ステップ 3) オープンストリートマップによる告知

3. 実現にいたるプロセス

ステップ 1 は現在推進中。

- ・中学生向け学習コンテンツ作成済み
- ・小学生向け学習コンテンツ開発中
- ・オンライン学習プラットフォームとしては、学校の Microsoft TEAMS 上もしくは zoom 開催

ステップ 2 は企業への交渉を進めている。

「グルメ軒屋社会貢献の家」での防災学習実施を快諾頂く

ステップ 3 は現在構想のみ。